

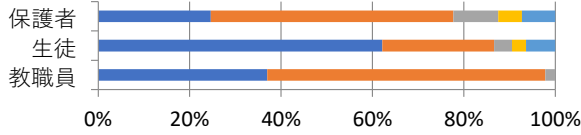
令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

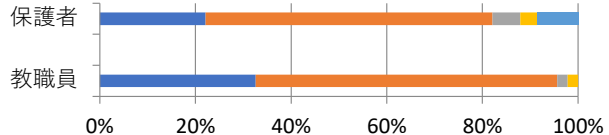
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

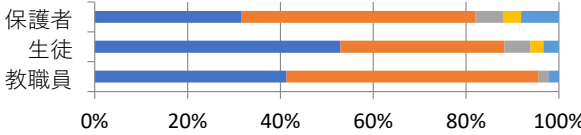


【考察】「1一人一人の児童の尊重」では、昨年と比べ、保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が+2.2ポイントで、児童は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が昨年とほぼ同率で、教職員の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が97.9ポイントである。教職員も児童一人一人を大切にしたい指導や対応を意識しており、学校の対応や様子が伝わり、信頼度が向上していると考えられる。「2道徳・心の教育の充実」では、保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」のポイントが若干向上したことから、親子道徳での授業や通信等での啓発により学校の道徳教育への理解が高まったと考えられる。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

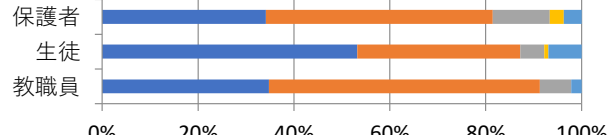
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

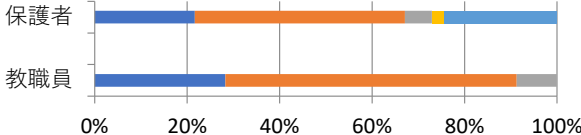


【考察】「3授業力向上」では、昨年度と比べ、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が保護者は+2.4で、児童は9割近くが肯定的な意見である。また、「4タブレット端末活用」では、昨年度と比べ、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が保護者は-2.1ポイントで、児童は-6.4である。今後も、ICTの研修・研究を進めながらタブレット端末を有効活用して、わかる授業、楽しい授業づくりに努めなければならないと考えられる。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

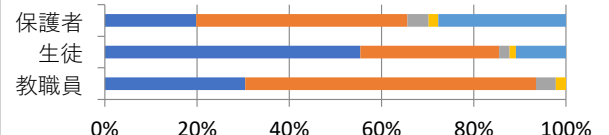
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



【考察】「5学校の支援体制」では、昨年度と比べ保護者の「そう思う」の割合が+4.4であることから、学校での取り組みへの保護者の理解が深まったと考えられる。今後も学級懇談等で、複数での支援体制について発信するなどして、理解と信頼を高めていきたい。「6共生社会を担う人材の育成」では、保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が+1.6で、児童の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が-6.1であることから、児童が交流及び共同学習を「よかった」と感じられるような取り組みを工夫する必要があると考えられる。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>【考察】「7安全と事故防止」では、昨年度と比べ「そう思う」のポイントが保護者は+4.6あるのに比べ、児童は-4.2であり、実際校内のけがは昨年より増加している。より一層安全教育の充実に努める必要がある。「8家庭や地域との連携協力」では、7割以上の保護者が肯定的な意見である。保護者や地域に対して月1回は学校だよりで学校の様子を伝えたり、行事には評議員の方を積極的に招いたりした。今後は本校ホームページを積極的に活用していきたい。</p>	

⑤ 本校の教育

9 あいさつ	10 自他の尊重
子どもは、あいさつをすすんで行っていると思いますか。	子どもは、じぶんを大切にしていると思いますか。
<p>【考察】「9あいさつ」については、児童の「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」のポイントが86.1%に対して、保護者、教職員のポイントは60%前後である。児童と保護者、教職員の意識の差がある。児童があいさつなどの日常生活を振り返り、自らの課題に気づき、改善していこうとする力をつけさせる必要がある。</p>	

⑤ 本校の教育

11 自他の尊重	
子どもは、お友だちを大切にしていると思いますか。	
<p>【考察】「10、11自他の尊重」では、保護者、児童、教職員ともに高いポイントで肯定的評価をしている。しかし、教職員のポイントは昨年度と比べ、「10自他の尊重」では-5.4、「11自他の尊重」では-6.5である。これからも、自分を大切にするだけでなく周囲の友だちも同様に尊重することの大切さを、日々の教育活動全般を通して意識し行動させていくことが必要であり、様々な教育活動で常に人権を意識をした指導が大切である。</p>	

来年度の具体的な取組について

○学校教育目標や教育方針、学校の取り組みなどについては、学校だよりやホームページ、安心安全メールまでの細やかな発信をつづけ、保護者、地域の理解を高める。特に、学校ホームページの活用を進める。

○道徳の授業を中心に、子供の心を揺さぶり、葛藤を生む「考え、議論する」活動を通して、道徳的実践力の育成を目指す。また、自己肯定感や自己有用感などを高めるために、自他のよさを認め合う活動を多く取り入れて行く。いじめや人権を侵害するような言動に対しては、共通認識のもと、組織で対応していく。

○学力向上のために、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を学校全体で行っていく。特に、児童同士のかかわり合いを重視し、タブレット端末を有効的に取り入れた授業改善に取り組む。また、高学年では教科担任制や専科担任制を活用し、教師が特定の教科の教材研究に集中できるようにすることで、児童が意欲的に取り組める授業づくりを行っていく。

○自助と共助の心を育む実践的な避難訓練や安全教育を推進し、保護者や地域と連携しながら安全な学びの環境を確保できるようにする。

○たくにしdayや授業参観、学級懇談会、教育相談、各行事等において、保護者・地域の方々の交流や情報共有を進め、「地域とともにある学校」を目指す。

学校関係者評価

・②3「授業力の向上」や③6「共生社会を担う人材の育成」で保護者が「わからない」と回答しているポイントが高い。これは、保護者に学校の取り組みや努力が伝わっていないように感じる。次年度は、ホームページ等を有効に活用して日常的に学校の様子を発信するようにすることで、「わからない」と回答する保護者を減らせるように努力する必要がある。

・学校での様々な活動で保護者、児童、教職員が同じ「目標」を持っていると、教育効果も上がることが考えられる。学校で様々な行事などを行うときに、保護者、児童、教職員が同じ「目標」を持ち、行事を通して更に達成感や充実感が味わえるようにして欲しい。